

# 岩手の海は美しく豊かな海なんだ。

いろいろな魚がとれる「**漁場**」  
 美しい景色が広がる「**リアス式海岸**」  
 三陸は海の恵みを育てる「**ゆりかご**」  
 人は海からたくさんの恵みを受けて生活をしてきました。  
 東日本大震災津波で被災した地域も復旧・復興が進み、海との暮らしを取り戻しつつあります。

東日本大震災津波の被害から復旧し11年ぶりに海開きを果たした高田松原海水浴場(陸前高田市)



浄土ヶ浜(宮古市)



養殖ホタテのカーテン

豊かな海を守る方法を一緒に考えよう!



# でも…世界の海で大変な問題が起きている!?

わたしたち人間の暮らしから生まれるごみが原因で海が汚れ、様々な生き物が苦しんでいます。海洋ごみはどうして生まれるのでしょうか?

このままだとどうなっちゃうの!?

様々なごみの中でも、自然の力では分解されにくいといわれるプラスチックごみ。回収しなければ海の中で増え続けます。このままでは、プラスチックごみは2050年には魚の量より多くなってしまおうといわれています。

どうかしないと海の生き物の暮らしが大変なことになっちゃうー!



## 海洋ごみはどうして増えているのかな?

### どこからやってくるの?

そもそも、海洋ごみはどこからやってくるのでしょうか。実は、海の近くだけではなく、遠い街で捨てられたごみが、雨や風で川に流れこみ、海に運ばれてくることも多いのです。海洋ごみのうち、8割は街から流れてきたものといわれています。

### どんなごみがあるか調べてみよう!

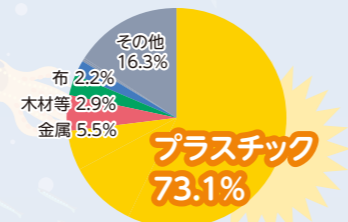
県内の小学生が海岸に打ち上げられたごみを調べたところ、生活ごみが見つかりました。この調査は一例ですが、岩手県の海岸にもごみが流れ着いていることが分かります。

※宮古市立崎山小学校の4年生33名が、岩手県立大学の先生と一緒に調査を実施(令和3年6月)

- 宮古市中の浜海岸で回収した漂着ごみ
- 今回回収した漂着ごみの体積の構成



破片・かけら 117: 飲み物容器 37: 生活用品 37: 食べ物容器 51: 釣り・漁具 53: その他 49:



※漂着ごみの分類(グラフ)については、環境省の「海岸漂着物調査ガイドライン」をもとに行っています。

最も多かったのは、プラスチックごみ(73.1%)でした。プラスチックは、自然の力では完全に分解されにくいいため、特に問題になっています。

街と海はつながっている!

海洋ごみがうまれる仕組みを理解しよう!

## みんなで岩手の海をきれいにしよう!

世界中の海はつながっています。岩手県の海をきれいにすることは、世界の海を美しくすることにつながります。一人ひとりが身近なことから取り組み、きれいな海を守っていきましょう。

### 身近なことから始めよう!



### 様々な清掃活動が行われています。



いわてマリンキッズ 2021 (2021.7.27 宮古市女遊戸海岸)



小袖小学校 (2021.4.11 久慈市小袖海岸)



盛岡市大通り商店街お弁当パラダイス (2021.4.26 盛岡市大通商店街)



北上川フィールドライフクラブ (2021.4.11 花巻市北上川河川敷)

つながろう、未来の海へ。  
 取り組もう! できることアクション!!



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs) 将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、一人ひとりが自己認識をもって課題解決に挑むために設定された世界共通の目標。